

令和7年 8月の優しさ通信

目次

- (1)  密室の訪問看護にリスク 6割でカスハラ
- (2)  「通級指導」最多 20 万人 障がいがある小中高生利用
- (3)  学童待機なお 1.7 万人 4 年ぶり減少も高止まり
- (4)  中学生の 1 割 起床時に不調

(1) 密室の訪問看護にリスク 6割でカスハラ

* [日本訪問看護財団などの 4 月中旬、全国 12, 265 の事業所へのアンケート調査 (回答 2628 事業所)]

* 64.2%が「過去に患者やその家族からカスタマーハラスメント (カスハラ) を受けた」。

* 全体の 17.2%は「実際に患者らから暴力を受けた」。

* 訪問看護では患者からの暴力や迷惑行為、物を壊す行為などが認められる場合、複数人による訪問看護をすることで、診療報酬などが加算される仕組みが設けられています。

* 請求には患者や家族による同意が必要。

(2025 年 7 月 12 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 「通級指導」最多 20 万人

障がいがある小中高生利用 文科省 2023 年調査

* 障害がある国公私立の小中高生で、通常学級に在籍しながら必要に応じて別室で授業などを受ける「通級指導」を利用したのは、2023 年度に全体の 1.7%に当たる 203,376 人。過去最多を更新。

* 通級指導は少人数指導が多く、コミュニケーションなどが苦手な子に特性に応じた授業が可能とされます。

* 小学生の利用者は 16 万人超、中学生は 3 万人台、高校生は 2 千人台。

* 障害別の内訳は、言語障害が 47,069 人 (23.1%)、注意欠陥多動性障害 (ADHD) 44,107 人 (21.7%)、自閉症 41,171 人 (20.2%)、学習障害 (LD) 40,396 人 (19.9%)。

(2025 年 7 月 17 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 学童待機なお 1.7 万人 4 年ぶり減少も高止まり

夏休み・小 1・首都圏に需要

*放課後児童クラブ（学童保育）に希望しても入れなかった待機児童が、5 月時点で前年同月より 3.8%減の 17,013 人。4 年ぶりに減少。

*利用登録している児童は 5 月時点で 1,568,588 人と、前年同月より 8.2%増。

*過去最多を更新。

*秋になると待機児童数が春に比べて半減します。

*「小 1 の壁」：保育所に通っていた子が小学校に上がると、登校時間が遅くなったり帰宅が早まったりして預け先に困る問題。

*こども家庭庁は小 1 の枠を優先的に確保するよう呼びかけます。

（2025 年 7 月 30 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

(4) 中学生の 1 割 起床時に不調

自治体が指針 学校に理解促す

自律神経の乱れ要因 梅雨に悪化

*自律神経の不調で朝起きるのが難くなる「起立性調節障害（OD）」の理解を促そうと、学校向けの指針を定める自治体が相次いでいます。

*ODは血圧などをコントロールする自律神経の不調によって、思春期を中心に起床困難や食欲不振、頭痛といった症状が現れます。

*軽症も含めて中学生の約 10%に症状がみられます。

*気圧や気温に左右されやすく、梅雨から夏にかけて症状が悪化する傾向があります。

*午前中に症状が現れ、午後になると回復する特徴があります。

☆起立性調節障害

*自律神経の働きが乱れることで発症。

*ホルモンバランスに変化が生じる思春期前後の発症が目立つ。

*日常生活での治療法として、頭を下げてゆっくり立つことや水分・塩分の補給などが有効とされる。

（2025 年 6 月 26 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）